

No.30
2018
9/10



はちおうじ

JR東労組
八王子地本
八王子地本
ホームページ
「東労組八王子」で検索



働きがいある明るい職場は
私たちの手で創り出そう！

政策フォーラム2018 2018年9月8日 国分寺労政会館

9月8日八王子地本は「政策フォーラム2018」を開催、営業・きかく・運車・工務部会より夢ある職場づくりに向けた具体的提言を頂きました。

提言 営業部会「変革2027」に「挑む」！

現行発生している輸送混乱時のサービス低下、少子高齢化に向けた旅客対応策として「折り返し運転・私鉄乗換駅は本体運営すべき」「無人駅に遠隔システム導入」「ハンディを持った人の雇用確保」

きかく・事務分科会「働きやすい職場づくり」

組合員が安心して働けるバックアップ体制として「各職場に事務を残す」「気兼ねなく休息の取れるプライベートが確保されたスペースの設置」

【全体討論で出された特徴的発言】

- ・臨電運転時に被管理駅を遠隔操作できなかった事象があった。やはり現地に人は必要だ。
- ・駅に人が居ない事は犯罪の温床になる。近隣の自治体とも協議すべき。
- ・長坂駅無人化したが「靴を落とした旅客ために小淵沢から駆け付ける」は現実的な対応なのか。
- ・えきねっと予約23時過ぎると発券できず、規約上一時的に2倍運賃を取る矛盾。サービス低下では？
- ・変革2027で駅の業務成り立つのか？自然災害に対してもう「想定外」は通用しない。
- ・最近の傾向で上司が「もう決定事項だから…」と持ってくる。これが会社の言うスピード感か？
- ・今かけられている施策に対して「どうしたらいいか」と共に考えるヒューマンイズムの視点が大事。
- ・駅員を減らしておきながら声掛けサポート運動への協力要請は矛盾している。お客さまへの押し付けだ。



工務部会 保線部門におけるメンテナンス体制の最適化施策を職場から創り出す

安全な鉄道輸送を確保する工務職場の技術力向上に向けた「施策への疑問、不安、問題点を掴んで政策立案能力を高める」「異常時対応訓練の実績把握」「閑散線区の現実把握」

運車部会 ～新たな乗務員勤務制度を考える～ 鉄道の安全と人間労働の否定を許さず、乗務労働の特殊性を守るためには…

専門特化することで技術継承技能伝承に繋げる事から「自ら判断できる乗務員づくり」と「エルダー乗務員をアドバイザー指導員として短時間行路・添乗業務を担う」

【全体討論で出された特徴的発言】

- ・中央線の乗り心地は低下している。省力化軌道で特に中野～新宿間のマッチングが悪く、8か所ぐらい左右に揺れる。
- ・系統のプロづくりが必要。立川北改札できたら他の改札の負担が減る、は本当にそうになっているのか。検証が必要。
- ・いち早く脱退し不当労働行為を続ける上司を部下は信用していない。
- ・駅の要員は厳しく、制度について勉強する時間もない。基本自主学习になっている。
- ・通常を理解してこそ異常がわかる。数値管理しても理解する人がいない。

機械化・IT化がいくら進もうと最後は人間の五感が大事！
判断できる労働者が育つ技術継承・技能伝承できる鉄道を創造しよう！！